

大東文化大学 語学教育研究所所報

No. 45 2022年3月

目 次

2021（令和3）年度活動報告	1
2021（令和3）年度語学教育研究所運営委員及び研究員	2
研究員研究分野の紹介、客員研究員、特別研究員	3
2021（令和3）年度研究発表会	4
2021（令和3）年度講演会	7
学術誌掲載情報、刊行物について	9
原稿募集要項「語学教育研究論叢」第39号	10
原稿募集のお知らせ「語学教育フォーラム」第37号	11
2021（令和3）年度購入図書一覧	12

2021（令和3）年度活動報告

語学教育研究所所長
丁 鋒

語学教育研究所（「語研」）は大東文化大学外国語学部の所属機関として、教員や研究員及び博士課程大学院生の最新学術成果を刊行し、社会や学術界に貢献することに機能しております。「語研」は1983年創設され今年度三十九年となり、来年度は四十周年という節目を迎えることとなります。

孔子が曰く「四十而不惑」のように長い年月を経て、先輩の研究者、投稿者や事務関係者など多方面にわたり、大勢の方々のご奉仕ご尽力により、厚重かつ立派な刊行物や運営精神が濃縮・蓄積され、「語研」の「財産」として今日の「語研」運営へのエネルギー源になっています。

今年度はコロナ禍二年目になりますが、運営委員・研究員のご努力ご支援のおかげ様で、研究所全ての業務は順調に進められ、大変有難く喜びに値することです。

「所刊」である『語学教育研究論叢』は、新年度早々、編集委員長安藤好恵先生と研究員の先生方が「原稿募集要項」の改定に着手しはじめ、議論・立案・文書化の上、積年の投稿運営の問題点

を全面的に解決しました。投稿方式・機関リポジトリ登録や公開許諾書の提出方法・院生投稿の指導教授推薦方法・匿名査読に対応する原稿要求など緻密さと整合性を備えた編集プロセスは今後の『論叢』編集に利便性とよき効率をもたらすことを期待しております。

専任教員の論集刊行園地である『フォーラム』は今年度、二件の応募があり、審議による一件の投稿は順調に刊行されました。「募集要項」のチェック・応募の審査から、投稿の査読・刊行の監督まで、編集委員長の上村圭介先生が完璧に責任を果たした賜物でした。

コロナ流行の影響がありますが、研究発表会がオンライン方式で開催され、4回の中、専任教員七名以外に、客員研究員の二名（尹仙花先生、池田三枝子先生）も貴重な最新研究を披露しまして、大変有益なことでした。コロナ禍で昨年度中止した講演会は今年度、オンライン方式で開催されました。講演会の開催に部会長野澤督先生をはじめ、運営委員の大島吉郎先生・福永美和子先生・田口悦男先生・ジェフリー ジョンソン先生・フランソワ ルーセル先生及び各部会の先生方や研究員の先生方、また博士課程指導教授藏中しのぶ先生から多大な支援を賜りまして、大いに感謝いたします。講演会で神戸市外国語大学佐藤晴彦名誉教授、千葉大学金田章宏名誉教授、奈良女子大学今野弘章准教授、学習院女子大学武井彩佳教授、ジャーナリストKaryn Nishimura氏、漫画家じゃんぼ〜る西氏が講演を行って下さりまして、深く謝意を申し上げます。

全年度の「語研」活動は全て事務職員のお支えを賜った上で実施されたことをここで特筆したいところです。最後は、運営委員・研究員・事務職員の皆様から頂いたこれまでのご協力に重ねて感謝致すとともに、今後も変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2021 年度 語学教育研究所運営委員及び研究員

2021 年度 語学教育研究所運営委員

所 長	丁 鋒	外国語学部中国語学科
研究会長	野澤 督	外国語学部英語学科
学 部 長	高尾 謙史	外国語学部英語学科
学科主任	竹島 毅	外国語学部中国語学科
学科主任	米山 聖子	外国語学部英語学科
学科主任	福盛 貴弘	外国語学部日本語学科
研究科委員長	鈴木 敬了	外国語学部英語学科
委 員	大島 吉郎	外国語学部中国語学科
委 員	ジェフリー ジョンソン	外国語学部英語学科
委 員	福永美和子	外国語学部英語学科
委 員	フランソワ ルーセル	外国語学部英語学科
委 員	田口 悦男	外国語学部日本語学科

2021 年度 語学教育研究所研究員

部会長	野澤 督	外国語学部英語学科
研究員	安藤 好恵	外国語学部中国語学科
研究員	田村 新	外国語学部中国語学科
研究員	深澤 明利	外国語学部英語学科
研究員	三上 傑	外国語学部英語学科
研究員	小野寺賢一	外国語学部英語学科
研究員	上村 圭介	外国語学部日本語学科

研究員研究分野

氏名：野澤 督

所属：外国語学部英語学科（フランス語）

分野：フランスの旅行記 文学・文体論

氏名：三上 傑

所属：外国語学部英語学科（英語）

分野：生成文法理論研究、比較統語論研究

氏名：安藤 好恵

所属：外国語学部中国語学科（中国語）

分野：中国語学／中国語教育

氏名：小野寺 賢一

所属：外国語学部英語学科（ドイツ語）

分野：ジャンル詩学（抒情詩）

氏名：田村 新

所属：外国語学部中国語学科（中国語）

分野：中国語学／中国語教育

氏名：上村 圭介

所属：外国語学部日本語学科（日本語）

分野：言語政策論・日本語情報処理論

氏名：深澤 明利

所属：外国語学部英語学科（英語）

分野：現代アメリカ文学

客員研究員

氏名：尹 仙花

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

研究テーマ：『和名類聚抄』所引韻書について

氏名：池田 三枝子

期間：2021年4月1日～2022年3月31日

研究テーマ：渡来文化受容基盤となった人的ネットワーク

特別研究員

氏名：蘇 秋韻

期間：2021年9月1日～2022年8月31日

研究テーマ：位置移動詞“過”の文法化について

研究発表会

第 1 回

日 時：2021 年 6 月 21 日（月）

第 1 発表

発表者： 上村 圭介

題 目： 日本語教師の資格要件をめぐる政策的背景と専門家の責任

概 要： 現在、国内で日本語教師の職につくには、大学の日本語教師養成課程や、専門学校の日本語教師養成研修の修了が、もとめられる。しかし、このような資格要件をさだめているのは、文部科学省や文化庁ではなく、出入国在留管理庁である。本発表では、日本語教師の資格要件が、教育・国語行政当局ではなく、出入国行政当局によって、さだめられていることの政策的な背景と、それをめぐる専門家の責任について検討する。

第 2 発表

発表者： 安藤 好恵

題 目： コロナ禍における中国語学習者のビリーフ及び学習への取り組み方について

概 要： 2020 年度は COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響のため、全面的なオンライン授業が実施された。本発表では大学において対面授業とオンライン授業を 1 年ずつ経験したことになる中国語学科 2 年生を対象にアンケート調査を行い、従来の 2 年生のビリーフおよび学習への取り組み方に関する調査結果と比較し検討する。また、オンライン授業に関する自由記述について、テキストマイニングを行い検討する。

第 2 回

日 時：2021 年 10 月 18 日（月）

第 1 発表

発表者： 田村 新

題 目： 陳浚介 1920『白話文文法綱要』について

概 要： 龔千炎 1997 などの中国における文法学説史では 1930 年代中頃までを文法研究の萌芽期とし、その研究の特徴を西洋文法の模倣にあるとしている。陳浚介 1920『白話文文法綱要』はこの時期に出版された文法著作であるが、発表者は拙稿 2009 において、助動詞の分類に日本の文法研究の影響を受けた形跡を発見した。本発表では各品詞分類とその下位分類に着目し、日本の文法研究の影響の有無についてさらに考察を進めたい。

第2発表

発表者： 深澤 明利

題 目： 「地域文化学研究（英語文学研究）」におけるテキストの使用法について：

カート・ヴォネガット『スローターハウス5』の場合

概 要： 本学に着任して半年ほどが経った。授業の実践について、さまざまな試行錯誤を繰り返している状況である。そこで本発表では、2021年度前期における授業を振り返り、授業の在り方を再検討したうえで、改善案を提出することを目的とする。

第3回

日 時：2021年11月15日（月）

第1発表

発表者： 小野寺 賢一

題 目： ドイツにおける抒情詩の「主体」理論の展開

概 要： 現在、ドイツを中心に欧州で展開されている「抒情詩論（Lyrikologie）」の中心的課題の一つに、抒情詩の「主体」をめぐる問いがある。この問いはドイツにおいては一世紀以上の歴史をもち、1990年代中頃まではおもに「抒情詩の私（lyrisches Ich）」という概念を用いて論じられてきた。本発表ではこの概念が誕生した歴史的経緯とその後の展開を論じたのち、最新の研究動向を紹介する。

第2発表

発表者： 野澤 督

題 目： スタール夫人の *Corinne* における風景描写：

ローマのイメージをめぐって

概 要： 『文学論』や『ドイツ論』などにより、フランス・ロマン主義の理論的側面を準備したことが強調されるスタール夫人（1766-1817）において、小説『コリンヌ、またはイタリア』（1807）は描写が主たる構成要素になっている作品である。本発表ではこの小説に描かれたローマの風景に注目し、そのイメージがどのように構築されているかを確認する。そこからイタリアの風景描写と物語世界の照応を探る準備を行う。

第4回

日時：2021年12月13日（月）

第1発表

発表者：三上 傑

題目：生成文法理論における日本語研究の「これから」：
より説明力の高い言語理論の構築を目指して

概要：自然言語の普遍性を捉える理論として、生成文法理論はその誕生以来、めざましい発展を遂げてきた。しかしながら、その理論構築にあたっては、主として現代英語に関する議論に基づきなされてきた側面がある。一方、日本語を見てみると、現代英語とは異なる様々な類型的特点を持つことが分かる。本発表では、より説明力の高い言語理論の構築を目指し、生成文法理論における日本語研究から一般理論への貢献の可能性について考察したい。

第2発表

発表者：尹 仙花

題目：翻訳授業における出典論の応用
—華中師範大学の日本語教育実践を中心に

概要：翻訳論文は原作と訳作を比較し、訳者の翻訳態度・方法を究明する論文スタイルのことを言う。翻訳論文作成において、考察対象選択の主観性、理論と分析の乖離、結論の単一化問題が存在する。調査の結果、このような問題が存在する原因は理論応用の不適切にあった。したがって、古典文学研究の出典論を論文指導に応用し、論文作成における問題点の解決を試みた。本発表ではその指導プロセスと効果及び今後の課題について発表する。

第3発表

発表者：池田 三枝子

題目：万葉集の文学圏
—有間皇子詠と追和歌群の採録—

概要：現存する日本最古の歌集である『万葉集』には、〈宮廷歌壇〉〈皇子文学圏〉といった〈文学圏〉で醸成・継承された作品が採録されることがある。本発表では、『万葉集』巻二・挽歌部冒頭所載の有間皇子の自傷歌とそれに追和した人々の歌について、〈文学圏〉という観点からその採録について考察してみたい。

講演会

第1回

日 時： 令和3年11月20日（土）

場 所： Zoomによるオンライン開催

講演者： 佐藤 晴彦 氏

演 題： 馮夢龍と『平妖傳』、「三言」

概 要： 明代末期、小説、戯曲の改編・創作等で活躍した人に馮夢龍(1574～1646年)がいた。20回本、40回本(馮夢龍が改編)新旧2種『平妖傳』を比較して馮の言語的特徴を抽出し、馮が編集した「三言」(『喻世明言』『警世通言』『醒世恒言』)各巻の成立を明らかにしたい。

第2回

日 時： 令和3年12月9日（木）

場 所： Zoomによるオンライン開催

講演者： 金田 章宏 氏

演 題： 日本の言語と方言 –時空の広がりから–

概 要： 世界遺産の認定などを行っている国連の機関ユネスコは、2009年に世界の消滅の危機に瀕した言語というのを発表した。それによると世界に6千ほどもある言語の中で2千5百ほどの言語が消滅の危機に瀕しているが、日本にはなんと8つもの消滅危機「言語」が存在するというのだ。この講義ではそのうちの3つの「言語」、八丈語、宮古語、八重山語といくつかの方言、さらにはこれらと古代日本語との関わりについて紹介したい。

第3回

日 時： 令和4年1月7日（金）

場 所： Zoomによるオンライン開催

講演者： 今野 弘章 氏

演 題： 構文の語用論的機能による目的語の認可

概 要： 「親の形見を何してんだ！」のような「Xヲナニスル構文」には、通常の場合と異なり、文頭の目的語Xヲを文法的に認可する他動詞が見当たらない。詳しく観察すると、Xヲの認可では、当該構文の使用場面という語用論的情報が重要な役割を果たしていることが分かる。この点で、Xヲナニスル構文のXヲは、動詞ではなく、構文の目的語と特徴づけられる。この結果を日英語対照の文脈に置くと、次の日英差が明らかになる。周知のように、英語の結果構文や使役移動構文と呼ばれる表現では、構文による目的語認可が可能であるが、日本語の対応表現では不可能である。それに対し、Xヲナニスル構文と英語の対応表現では、日本語が構文による目的語認可を許容する環境において英語ではそれが不可能であるという、従来のもとは反対の状況が成立している。構文による目的語認可という「特殊」現象は、英語とは生じる文法的環境を変えて日本語にも存在する。

第4回

日 時： 令和4年1月13日（木）

場 所： Zoom によるオンライン開催

講演者： 武井 彩佳 氏

演 題： ホロコースト後のドイツのユダヤ人

概 要： 現在、ドイツには10万人ほどのユダヤ人が暮らしている。ナチによる迫害で崩壊したドイツのユダヤ人社会はどのように再建されたのだろうか。彼らがホロコーストの後にドイツに留まることを選んだ理由は何だったのだろうか。本講演では、ホロコースト後のドイツでユダヤ人はどのように生きてきたのか、その軌跡を概観する。そして「過去を克服」したはずの社会における反ユダヤ主義の問題や、ナチ迫害の歴史の否定にドイツはどのように対応しているのか紹介し、マジョリティとは異なる歴史背景を持つマイノリティとの共生について考える。

第5回

日 時： 令和4年1月13日（木）

場 所： Zoom によるオンライン開催

講演者： Karyn Nishimura 氏、じゃんぼ〜る西 氏

演 題： フランス人記者の目で見えた日本人、日本人漫画家の目で見えたフランス人

概 要： フランス人記者西村カリンと日本人漫画家じゃんぼ〜る西は、日々、日本とフランスの文化の違いを経験する日仏夫婦です。お互いに相手の文化を勉強しながら子育てをしています。漫画を描くじゃんぼ〜るさんは、フランス人妻の態度、言葉、料理などにびっくりし過ぎてネタが尽きません。毎日多くの日本人を取材して日本社会について記事を書くカリンさんは、日常生活と家族以外でも驚く話をよく聞きますし、バイリンガルだからこそ経験する言語の問題もあります。笑い話も多い講演会になりそうです。

学術誌掲載情報

2019年5月1日～2021年4月30日まで学外研究員として在籍していた井上尚子先生の論文が掲載されました。

掲載誌名：Sites (Vol.17, No 1) 掲載ページ：15-39

タイトル：Narratives of navigation: Refugee-background women's higher education journeys in Bangladesh and New Zealand (第3著者)

要旨：バングラデシュとニュージーランドで難民の背景を持つ女性の大学生10名を対象に質的調査を行い、難民の背景を持つ学生の高等教育へのアクセスやパフォーマンスを向上させるための支援のあり方を検討した。

掲載誌名：Higher Education

掲載 URL：<https://link.springer.com/article/10.1007%2Fs10734-021-00714-7>

公開日：14 April 2021 (オンライン公開で閲覧できます)

タイトル：Mobile agency and relational webs in women's narratives of international study (第4著者)

要旨：ニュージーランドとバングラデシュの大学に所属する、女性の留学生および難民の背景を持つ学生37名を対象に質的調査を行い、彼女たちの家族や所属するコミュニティが彼女たちの教育に及ぼす影響について論じた。

刊行物についてお知らせ

『語学教育研究論叢』第39号(2022年3月刊行)

『語学教育フォーラム』第37号(2022年3月刊行)

例年と変更した点があります。ご確認ください。

原稿募集要項

語学教育研究論叢第39号

語学教育研究所長 丁 鋒
論叢編集委員長 安藤 好恵

下記の通り原稿を募集します。奮って御執筆くださるようお願い致します。

- 内 容： 言語研究・語学教育に関する論文（書評、研究ノート、資料等も可とする）。文学作品等を対象とする言語学・文献学等の方法を駆使した研究も含む。
- 資 格： 1. 本学外国語学部専任教員（客員教員、特任教員、助教を含む）
2. 本学外国語学部非常勤教員
3. 共同研究の場合は第一執筆者が該当者であること
4. 客員研究員、学外研究員
5. 本学大学院外国語学研究科博士課程後期課程に在籍の学生（推薦書が必要）
6. その他編集委員会が適格者として認めたもの（推薦書を必要とする場合もある）
※ 応募論文多数の場合は上記番号順に優先権を有する。
- 投稿申込： 2021年5月17日（月）から2021年7月13日（火）15：00迄（必着）
「執筆申込書」をメールで添付送付すること。 To：語学教育研究所 daitogoken@gmail.com
Cc：編集委員長 安藤好恵 yandou@ic.daito.ac.jp
- 所定の用紙： 執筆申込及び原稿提出の際に必要な以下の所定の書類は、語学教育研究所のHPに掲載する。
1 執筆申込書、原稿フォーマット、大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書、指導教員推薦書
1 語学教育研究所HP <https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>
- 原稿提出締切： 2021年9月17日（金）15：00迄（必着）
- 原稿提出先： 語学教育研究所 daitogoken@gmail.com 宛にメールで添付送付すること。
1 メール送付できない場合は、レターパックライト（青）による郵送での提出も可とする。
1 その場合は紙版とともにCD-Rなどのデータファイルを同封すること。
大東文化大学 語学教育研究所 〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1 (TEL：03-5399-7330)
- 原稿と一緒に提出するもの： (1) 大東文化大学機関リポジトリ登録・公開許諾書
※ 手書き・押印必要のため、語学教育研究所宛に直接または郵送にて提出すること。
(2) 指導教員の推薦書
※ 大学院後期課程の学生のみ、メール添付で提出、その際指導教員のアドレスをCcで入れること。
- 投稿規程： 1. 未発表の完成された原稿であること。
2. ワープロ原稿とする。横書き全角38字・35行、欧文の場合は半角70字・35行、それぞれA4用紙15枚以内とする（図版・レジュメを含む）。原則、HPの原稿フォーマットを使用のこと。指定ファイル以外の場合、フォント・サイズ等は原稿フォーマットのレイアウトと同様の設定をすること。1ページあたりの文字数・行数等の規定を遵守せず、最終的に15ページを超えてしまった場合は、掲載をお断りする。書式、表記など、甚だしい誤字脱字などがある場合、受け付けないことがある。
3. 本文以外の言語のレジュメを論文の前に付すこと。欧文のレジュメの場合もそれに準ずる。（日本語、中国語は400字以内、欧文は300語以内）
また、キーワードを5語前後、列挙すること。（本文の言語による）
4. 論文の題目は日本語及び中国語原稿には欧文、欧文原稿には日本語を付記する。
5. 欧文タイトルの書式は、編集委員会に一任すること。
6. 印刷所等は語学教育研究所に一任すること。
7. 抜刷り贈呈は20部とする。増刷分は個人負担とし、執筆申込書に増刷部数を明記する。
8. 提出された原稿の審査による採否及び、ジャンルの特定は一切編集委員会に任せること。
9. 母語でない言語での論文については、題目、要旨も含めて必ずネイティブ・チェックを受けること。
10. 投稿時には謝辞、補助金、執筆者が特定される記述等を書かないこと。謝辞等については、掲載が決まり、査読後の修正原稿提出時に規定のページを超えない範囲で加筆してよい。
- 校 正： 著者による校正は二校までとし、紙での校正を原則とする。内容、ヘッダー及びページ番号など、関連付随事項に関して、著者の責任において校正のこと。各校正の提出期限までに未提出の場合は、掲載を見合わせる場合がある。新規加筆は認められない。
- 発行日： 2022年3月発行予定
- 問い合わせ先： 語学教育研究論叢 編集委員長 安藤好恵 (E-mail：yandou@ic.daito.ac.jp) 以上

2021年5月10日

2021年度『語学教育フォーラム』第37号原稿募集のお知らせ

語学教育研究所

所 長 丁 鋒

編集委員長 上村 圭介

『語学教育フォーラム』第37号（2022年3月刊行予定）の原稿を下記の要領で募集いたします。

記

1. 募集原稿は、言語学・言語教育に関する論文（未発表のもの）、索引、未刊行言語資料の復刻、研究資料要覧、言語研究・教育に有益なデータ類、文学作品の言語学的分析等の分野のものとし、
2. 応募資格は著者、代表著者、または代表編者が以下の所属であることとします。また優先順位は下記番号順とし、本制度を今までに利用されていない方を優先します。
 - ① 語学教育研究所研究員
 - ② 外国語学部専任教員
 - ③ 語学教育研究所客員研究員
 - ④ 外国語学部客員研究員
 - ⑤ 外国語学研究科客員研究員
 - ⑥ 他学部専任教員
3. 刊行形態としては以下の通りとします。（ただし、予算の関係上、変更を求める場合があります。）
ワープロ A4 判で、200 枚以内のもの。単体での刊行を原則とします。ただし、応募状況によっては複数論文から成る論文集として刊行します。和文・中文は 35 字×40 行、欧文は 65 字×40 行を目安とします。
4. 原稿は電子データとして提出してください。また、併せて印刷見本 1 部と PDF ファイルを提出してください。電子データの提出がない場合には受付できません。なお、電子データは原則として Microsoft Word 形式とします。それ以外の形式で提出された場合には、最終的な編集作業にご協力いただくことがあります。
5. 外国語による出版を希望される場合、ネイティブチェックを済ませた原稿を提出してください。なお、ネイティブチェックにかかる費用は著者の負担となります。
6. 完成原稿（カメラレディ原稿）を提出してください。校正はありません。
7. 執筆申込につきましては、執筆申込書を 2021年5月11日（火）～7月13日（火）15:00 迄に語学教育研究所まで提出してください。なお、執筆申込書は語学教育研究所の HP に掲載します。
8. 完成原稿は 2021年10月14日（木）～11月12日（金）15:00 迄に語学教育研究所まで提出ください（期限厳守をお願いします）。
9. 応募原稿は、研究所所長、研究部会長および当研究所が依頼した審査委員によって審査をいたします。その結果によっては刊行不可能となる場合もございます。なお、審査結果は文書にて 12 月下旬（予定）までに通知いたします。応募論文数と予算との兼ね合いで、必要な場合には調整をさせていただく場合があります。

ご不明な点がございましたら、編集委員長 (kamimur@ic.daito.ac.jp) および所長 (fengd0761@ic.daito.ac.jp) までお問い合わせ下さい。

以上

購入図書一覧

分野	番号	タイトル	著者	出版社
中国語	2021-1-002	Linguistic Atlas of Asia	遠藤光暁・峰岸真琴 他	ひつじ書房
中国語	2021-1-003	文学の力、語りの挑戦 中国近現代文学論集	宮尾正樹教授退休記念論集刊行会 編	東方書店
中国語	2021-1-004	中国語と中国語研究十五講	陸俊明, 沈陽/古川裕 監訳	東方書店
中国語	2021-1-005	28言語で読む「星の王子さま」世界の言語を学ぶための言語学入門	風間伸次郎, 山田怜央 編著	東方書店
日本語	2021-1-006	『社会言語学』2号～21号	「社会言語学」刊行会	「社会言語学」刊行会
日本語	2021-1-026	『社会言語学』別冊1号～3号	「社会言語学」刊行会	「社会言語学」刊行会
フランス語	2021-1-001	フランス語の時制とモダリティ	渡邊淳也	早美出版社
フランス語	2021-2-001	Le Bon usage	André Goosse	De Boeck université
フランス語	2021-1-029	21世紀フランス語表現辞典	クロード ロベルジュ	駿河台出版社
フランス語	2021-1-030	ビジュアルマップ大図鑑世界史	スミソニアン協会監修	東京書籍
フランス語	2021-1-031	地図で見るアフリカハンドブック	ジェロー マグラン他	原書房
フランス語	2021-1-032	仏検公式ガイドブックセレクション準2級	公益財団法人フランス語教育振興会 (編)	駿河台出版社
フランス語	2021-1-033	仏検公式ガイドブックセレクション2級	公益財団法人フランス語教育振興会 (編)	駿河台出版社
フランス語	2021-1-034	最新フランス語話語辞典 映画からの引用文付	窪川英水	早美出版社
英語	2021-2-002	MLA HANDBOOK NINTH EDITION		MLA
英語	2021-1-035	宗教改革の知的な諸起源	A.E.マクグラス	教文館
英語	2021-1-036	フーコー文学講義	ミシェル・フーコー	河出書房
英語	2021-1-037	クリエイティブ・クラスルーム	キース・ソーヤー	英治出版
英語	2021-1-038	PBL(Problem-based Learning)ー判断能力を高める主体的学習	ドナルド・ウッズ	医学書院
英語	2021-1-039	関係からはじまるー社会構成主義がひらく人間観	ケネス・ガーゲン	ナカニシヤ出版
英語	2021-1-040	統語論と言語学諸分野とのインターフェイス	土橋善仁 他	開拓社
英語	2021-1-041	音声学・音韻論と言語学諸分野とのインターフェイス	大沢ふよう 他	開拓社
英語	2021-1-042	形態論と言語学諸分野とのインターフェイス	西原哲雄 島田雅晴 時崎久夫 由本陽子 西山國雄	開拓社
英語	2021-1-043	意味論・語用論と言語学諸分野とのインターフェイス	大橋浩 朱 冰 他	開拓社
英語	2021-1-044	Studies in Language Sciences, Volume 13	言語学会	開拓社
英語	2021-1-045	英語語法文法研究 第19号	英語語法文法学会	開拓社
英語	2021-1-046	【新装版】基礎と完成 新英文法	安藤貞雄	開拓社
英語	2021-1-047	移動表現の類型論と第二言語習得	吉成祐子	くろしお出版
ドイツ語	2021-2-003	Büchner-Handbuch: Leben - Werk - Wirkung	Roland Borgards/ Harald Neumeyer(Hrsg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-004	Wagner-Handbuch: Sonderausgabe	Laurenz Lütteken(Hg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-005	Schopenhauer-Handbuch	Daniel Schuppe/ Matthias Kossler (Hg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-006	Thomas Mann-Handbuch: Leben - Werk - Wirkung	Andreas Bloedorn/ Friedhelm Marx(Hrsg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-007	E.T.A. Hoffmann-Handbuch: Leben - Werk - Wirkung	Christine Lubkoll/Harald Neumeyer(Hrsg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-008	Rilke-Handbuch: Leben - Werk - Wirkung	Manfred Engel(Hrsg.)	Metzler
ドイツ語	2021-2-009	Lessing-Handbuch: Leben - Werk - Wirkung	Monika Fick	Metzler

大東文化大学語学教育研究所所報 No. 45

2022年3月1日

編集発行 大東文化大学語学教育研究所

〒175-8571 東京都板橋区高島平 1-9-1

TEL 03(5399)7330

FAX 03(5399)7381

Email: daitogoken@gmail.com

<https://www.daito.ac.jp/research/laboratory/goken/>